

教職員等講座

～奄美の自然を体感しながら体験活動の教育的意義を学ぶ～

県立奄美少年自然の家

「教職員等講座」～講話・体験活動紹介～

趣旨

教職員や教育委員会の生涯学習・社会教育担当職員が、実際に奄美の自然や文化にふれる野外活動や創作活動の体験を通して、体験活動の教育的意義を更に深め、集団宿泊学習をはじめとするこれからの教育活動に生かす機会とする。

◇ 日時

令和6年8月23日（金）

午前9時30分から午後4時まで

◇ 場所

- ・ 鹿児島県立奄美少年自然の家
- ・ 朝仁海岸（海洋・海浜研修場）

講話

「学校教育と社会教育の連携・協働」をテーマに所長の講話から講座が始まりました。「地域とともにある学校づくり」「社会に開かれた教育課程の実現」「学校を核とした地域づくり」など、今日的教育課題の解決に向けた学社両輪での好事例や新聞記事を基にした講話でした。学社連携（融合）・協働の果たす役割を理解するとともに、2学期からの実践に向けた学びの場となりました。



【講話「学校教育と社会教育の連携・協働」】



【熱心に意見や情報を交換する参加者】

研修1「野外炊さん」

集団宿泊学習で行う野外炊さんを実際に体験してもらいました。作り方や安全面についての説明を受け、炊さん場での調理、かまどでの火起こし等、チームワークを発揮しながら、カレーライス作りに挑戦していました。できあがったカレーライスは、とてもおいしく、笑顔あふれる昼食となりました。



【野外炊さん研修でカレーライス作り】

研修2「海洋・海浜活動研修」

当所の特色ある活動プログラムである「いかだ」と「SUP」の体験活動を行いました。いかだ活動では、木枠にフロートを取り付ける活動から始まり、SUPでは、波風に苦戦しながらもみんなで呼吸を合わせ、パドルを漕ぎ進めていました。朝仁海岸の美しいリーフや砂浜での体験活動を通して、参加者は自然の素晴らしさや力を合わせることの大切さを体感し、充実した研修となりました。



【朝仁海岸で「いかだ・SUP」の体験活動】

参加者の感想

- 学校教育と社会教育のつながりについて、学ぶ機会になりました。社会に開かれた教育課程を作成するという意識はもちろん、実際の人材活用、業務改善へのヒントを学ぶことができました。
- 野外活動では、協力して取り組むことの大切さや子供たちへの指示や配慮等も実際に体験することで、より理解を深めることができました。